令和5（2023）年1月18日

報道関係者
地域広報関係者　各位

国際日本文化研究センター

「第6回　日文研－京都アカデミック ブリッジ」開催のお知らせ

国際日本文化研究センター（日文研）は、京都新聞社と連携し、これまでの研究や最新成果を市民の皆さまに発信することを目的として、京都市中心部の会場で継続的に「日文研－京都アカデミック ブリッジ」を開催しています。

第6回目は、京都新聞文化ホール（京都新聞ビル7階）を会場として、下記のとおり開催しますので、周知へのご協力をよろしくお願いいたします。取材を希望されるメディアの皆様は、下記事務局の京都新聞COM事業推進局開発推進部に、事前にご連絡ください。

記

〇タイトル：第6回　日文研－京都アカデミック ブリッジ
〇テ　ー　マ：「東シナ海が生んだ京文化」
〇日　　時：2023年2月14日（火）　18:00-20:00（開場17:30）
〇会　　場：京都新聞文化ホール
（京都市中京区烏丸通夷川上ル　京都新聞ビル7階）
〇参　加　料：無料、要申込（定員100名、応募多数の場合は抽選）

〇内　　容：日本列島と朝鮮半島、ユーラシア大陸を結んできた東シナ海。遣唐使の時代から僧侶、商人らが相互に往来し、仏教の教えや文物が伝えられ、9世紀以降の京では、遠い大陸の影響を反映した文化が華開きました。国際交流都市としての京が取り込んだ当時の最新文化、国内外の文化が溶け合って生まれた新しい芸術や世界観について、東アジア各国の気鋭の若手研究者がディスカッションします。

【1】パネルディスカッション

【パネリスト】

鄭　淳一（じょん　すにる）　高麗大学歴史教育科副教授／日文研外国人研究員
朱　莉麗（しゅ　りれい）　復旦大学文史研究院副研究員／日文研外国人研究員
本多　潤子（ほんだ　じゅんこ）　相国寺承天閣美術館学芸員

【進行】

榎本　渉（えのもと　わたる）　日文研准教授

【2】質疑応答

※日本語で行います。詳細については、以下のURLをご参照ください。
https://www.nichibun.ac.jp/ja/events/academic_bridge/2023/02/14/

本件お問い合わせ先：
事務局　京都新聞COM事業推進局開発推進部
TEL: 075-255-9757（平日10:00-17:00）　E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

〇申し込み方法：参加をご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数（複数名参加希望の場合は全員の必要事項）を明記のうえ、はがき、Eメールまたは応募フォームからお申し込みください。
応募多数の場合は、抽選を行います。参加者にはがき（聴講券）を発送しますので、当日持参してください。

応募締め切り：2023年2月1日（水）必着

〇申　込　先：【は　が　き】〒604-8567　京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内
「日文研-京都アカデミックブリッジ」係
【Ｅ－ｍａｉｌ】keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
【応募フォーム】https://kyoto-np.jp/_FiYYMVA

〇主　　催：国際日本文化研究センター、京都新聞
〇協　　力：文化庁 地域文化創生本部
〇別 添 資 料：第6回 日文研－京都アカデミック ブリッジ広報チラシ

本件お問い合わせ先：
事務局　京都新聞COM事業推進局開発推進部
TEL: 075-255-9757（平日10:00-17:00）　E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
International Research Center for Japanese Studies

京都新聞

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第6回

日文研　京都

アカデミックブリッジ

THEME

東シナ海が生んだ京文化

パネリスト：鄭　淳一（高麗大学歴史教育科副教授／国際日本文化研究センター外国人研究員）
パネリスト：朱　莉麗（復旦大学文史研究院副研究員／国際日本文化研究センター外国人研究員）
パネリスト：本多 潤子（相国寺承天閣美術館学芸員）
進行：榎本　渉（国際日本文化研究センター准教授）

要申込

入場無料
定員100名
（抽選による）

2023.2.14（火）18:00～20:00（開場17:30）

京都新聞文化ホール
（京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階）

文化庁京都へ　文化庁

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター、京都新聞
協力：文化庁 地域文化創生本部

「日文研ー京都アカデミック ブリッジ」とは

国際日本文化研究センター（日文研）が京都新聞社と連携し、これまでの研究の蓄積と最新の成果を市民の皆様に発信することを主な目的とする催しです。2020年度から京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第6回 日文研 京都

アカデミック ブリッジ

THEME

東シナ海が生んだ京文化

日本列島と朝鮮半島、ユーラシア大陸を結んできた東シナ海。遣唐使の時代から僧侶、商人らが相互に往来し、仏教の教えや文物が伝えられ、9世紀以降の京では、遠い大陸の影響を反映した文化が華開きました。国際交流都市としての京が取り込んだ当時の最新文化、国内外の文化が溶け合って生まれた新しい芸術や世界観について、東アジア各国の気鋭の若手研究者がディスカッションします。自由で楽しい議論をお楽しみください。

パネリスト　鄭　淳一（じょん すにる）
高麗大学歴史教育科副教授／国際日本文化研究センター外国人研究員

高麗大学歴史教育科を卒業し、同大学大学院史学科で修士課程を終え、2008年4月に渡日。2013年2月、早稲田大学大学院文学研究科アジア地域文化学コースで博士（文学）学位を取得。韓国・明知大学助教授、高麗大学助教授などを経て現職。専門は日本古代史・東アジア海域史。著書に『九世紀の来航新羅人と日本列島』（勉誠出版、2015年）などがある。2022年9月より国際日本文化研究センター外国人研究員として「『新安船』を活用した中世東アジア海域交流史の教育方法論」について研究中。

パネリスト　朱　莉麗（しゅ りれい）
復旦大学文史研究院副研究員／国際日本文化研究センター外国人研究員

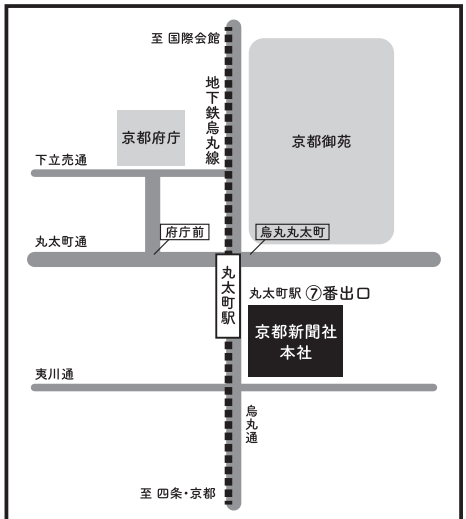
山東大学歴史文化学院歴史学科博士課程を修了、博士（文学）。中国復旦大学文史研究院・助理研究員を経て2013年より同・副研究員（准教授）。2013年～2014年、東京大学東洋文化研究所客員研究員、2022年8月より国際日本文化研究センター外国人研究員。専門分野は日明関係史、東アジア海域交流史。著書に『日本使節が観察した明代中国社会』（中国語）など。

パネリスト　本多 潤子（ほんだ じゅんこ）
相国寺承天閣美術館学芸員

立命館大学文学研究科博士後期課程を修了、博士（文学）号取得。専門は和歌文学。立命館大学、嵯峨美術大学などの非常勤講師を経て、2014 年に相国寺承天閣美術館に就職。現在は、同館学芸員として、相国寺と相国寺派の寺院に伝来する寺宝の調査、展示に取り組む。「言祝ことほぎの美」「茶の湯――禅と数寄」「いのりの四季」展などを担当。立命館大学授業担当講師として、京都学、日本文学の教育にも携わる。

進行　榎本　渉（えのもと わたる）
国際日本文化研究センター准教授

2003年3月東京大学人文社会系研究科歴史文化学科日本史学専門分野博士課程単位修得退学。同4月日本学術振興会特別研究員（PD、東京大学史料編纂所）。同6月東京大学東洋文化研究所助手（2006年3月まで）。2006年6月博士号取得（文学、東京大学）。2010年1月より、国際日本文化研究センター准教授。研究テーマは古代・中世日本の国際交流の歴史。単著に『東アジア海域と日中交流―9～14世紀―』（吉川弘文館、2007年）、『南宋・元代日中渡航僧伝記集成　附　江戸時代における僧伝集積過程の研究』（勉誠出版、2013年）、『僧侶と海商たちの東シナ海（増訂版）』（講談社学術文庫、2020年。初版2010年）などがある。



京都新聞文化ホール（京都新聞本社 7階）
京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町239

京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車
⑦番出口 すぐ

参加申し込み方法

参加ご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数（複数名参加希望の場合は全員の必要事項）を明記の上、
はがき、Eメールまたは右記応募フォームで下記宛先にお申し込みください。
応募多数の場合は、抽選で100名に聴講券を送付します。

締め切り：　2023年2月1日（水）　（必着）

〈はがき〉〒604-8567　京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内「日文研ー京都アカデミック　ブリッジ」係
〈Eメール〉keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
〈応募フォーム〉https://kyoto-np.jp/_FiYYMVA

※応募者の個人情報は、京都新聞COMが管理し、本事業の運営と日文研関連事業のご案内に使用させていただきます。
また聴講者に新型コロナウイルス感染者が発生した場合、要請があれば保健所等の公的機関に情報提供いたします。

※本事業の取材を希望される方は、右記のアドレスにご連絡願います：　keikaku@mb.kyoto-np.co.jp